

方向性	取組名	対象となるライフステージ					事業概要	平成30年度（2018年度）の取組実績	課題	課題に対する対応策・今後の方向性	令和元年度（2019年度）の取組実績及び予定	担当課
		乳幼児期	児童生徒期	青年期	壮年期	高齢期						
(1) 妊産婦や乳幼児への食育推進 【関連指標③、④、⑪】	母子健康手帳副読本等の配付	↔		↔			妊娠期及び就学前の家庭における乳幼児の望ましい生活習慣や食事内容について啓発することを目的として、妊娠届出時に、『母子健康手帳副読本』や『すくすく子育て手帖』『マタニティ食事レッスン』を配布します。	・2691部配付	—	継続して実施	引き続き妊娠届出時に配付	保健センター
	マタニティスクール	↔		↔			妊娠期及び産後に向けての望ましい家庭での生活習慣や栄養、食生活に関する講座を開催します。	・らくらくおしゃべりクッキング：9回 61人 ・どきどき育児体験クラス：6回101人 ・ぱまママクラス：6回544人 ・わくわく出産クラス：6回 107人	—	内容について検討しながら継続実施	わくわく出産クラスが年間5回の開催に変更。その他の教室については、同回数実施予定	保健センター
	妊産婦・新生児・乳児指導訪問	↔		↔			助産師会と連携し、助産師や保健師が、妊産婦および新生児を対象に家庭訪問を行い、育児や授乳、栄養に関する相談等を実施します。	・妊産婦（保健師訪問）のべ 1014人 ・妊産婦（助産師）のべ 1519人 ・新生児・乳児（助産師）のべ 1533人	—	継続して実施	引き続き、妊産婦、新生児、乳児を対象に、育児や授乳、栄養の相談を家庭訪問にて実施。	保健センター
	母乳相談	↔		↔			助産師による授乳や母乳育児のための相談を実施します。	・のべ729人	—	継続して実施	引き続き母乳育児の相談実施	保健センター
	乳幼児健康相談	↔		↔			身近な会場（保健センター及び生涯学習市民センターなど市内8ヶ所）へ出向き、身体計測や保健相談、栄養相談、歯科相談を実施	4550人（うち栄養相談 978人）	—	継続して実施	継続して実施	保健センター
	乳幼児健康診査	↔		↔			乳幼児健康診査や健康相談の場で、子どもの生活習慣や食事に関する相談や啓発を行います。	・4か月児健康診査 2670人 ・1歳6か月児健康診査 2827人（うち栄養相談 235人） ・2歳6か月児歯科健康診査 2736人（うち栄養相談 177人） ・3歳6か月児健康診査 2869人（うち栄養相談 144人） ・健診A のべ333人（うち栄養相談 58人）	—	継続して実施	引き続き、乳幼児健康診査及び健康相談を実施	保健センター

方向性	取組名	対象となるライフステージ					事業概要	平成30年度（2018年度）の取組実績	課題	課題に対する対応策・今後の方向性	令和元年度（2019年度）の取組実績及び予定	担当課
		乳幼児期	児童生徒期	青年期	壮年期	高齢期						
(1) 妊産婦や乳幼児への食育推進【関連指標③④⑪】	離乳食講習会・幼児食講習会	↔		↔			離乳食や幼児食に関する講座や調理実習を開催し、望ましい生活リズムや食事に関する啓発を行います。	・ぴよぴよ離乳食講習会 24回 463人 ・ステップアップ離乳食講習会 12回 223人 ・ぱくぱく幼児食講習会 5回 69人 ・親子で楽しくクッキング 2回 58人	—	継続して実施	引き続き、離乳食講習会・幼児食講習会を実施	保健センター
	子育てコール	↔		↔			電話や窓口で、子育てや栄養に関する相談を実施します。	・1037件（うち栄養相談212件）	—	H31.3末に廃止（ひらかた健康ホットライン24に統合）	廃止（ひらかた健康ホットライン24に統合）	保健センター
	健康教育（母子）	↔		↔			地域で催される子育てサロン等からの依頼により、職員が地域へ出向き、食に関する正しい知識を普及・啓発し、乳幼児の健康の保持増進を図ることを目的として実施	6回 328人	—	継続して実施	継続して実施	保健センター
	食生活に関する相談・指導事業	↔		↔			食育便りの発行 食育講演会 栄養相談	毎月食育便りを発行し、全幼稚園及び小学校配付するとともに、年に一回食育講演会を実施した。	食育便りを保育に活用していくことが課題である。	食育だよりや食育講演会を通じて、各家庭における食育に係る意識の向上を図る。	引き続き、毎月食育便りを発行し、全幼稚園及び小学校配付する。食育講演会のテーマを工夫し、多くの保護者に参加してもらう。	教育指導課
	育児教室	↔		↔			在宅の親子を対象としたふれあい体験事業や育児教室を通じて、生活リズムや食生活についてのアドバイスを行います。	・在宅の親子を対象とし実施 保健センターと連携し、公立保育所8園で前期5回コース参加人数延べ331人。後期公立保育所9園で9園5回コース参加人数延べ280人。	—	今後の方向性については検討中。	今年度は公立保育所すべて、後期の5回コースで実施予定。	子育て運営課
	栄養相談	↔		↔			生活習慣病予防のための個別の栄養相談（食生活指導）を実施します。	・87人（母子の相談のみ 保健センター：40人、北部リーフ：47人）	—	継続して実施	引き続き、保健センターと北部リーフで実施	保健センター
	ひらかた健康ホットライン24	←————→					看護師や医師らによるフリーダイヤル健康相談において、授乳や離乳食に関する相談を実施します。	平成30年度電話相談件数 授乳に関する相談：47件 離乳食に関する相談：35件	必要なときに利用されるよう、認知度を高めていくとともに、気軽に利用できる相談窓口と認識される取組が必要。	認知度を高めるため、案内チラシ配布等により、周知を行っていく。	案内チラシを、1歳6か月児・2歳6か月児・3歳6か月児健診にて配付することにより、子育て世代に向けた周知を行う。	保健企画課

方向性	取組名	対象となるライフステージ					事業概要	平成30年度（2018年度）の取組実績	課題	課題に対する対応策・今後の方向性	令和元年度（2019年度）の取組実績及び予定	担当課
		乳幼児期	児童生徒期	青年期	壮年期	高齢期						
(2) 保育所(園) ③ 幼稚園 ③ 認定こども園 ⑥ 学校における食育推進	小中学校における給食試食会		←→				小学6年生を対象に、中学校給食の試食会を実施します。 また、保護者等を対象に給食試食会や調理場見学等を実施される場合にも、給食を提供し、規則正しい食習慣や栄養バランス等、食と身体の関係について理解と関心が深まるよう給食を通じて啓発します。	・中学校給食試食会 全小学校45校6年生の試食会実施 ・小学校給食試食会 PTA及び幼稚園の園児等対象の130回 ・PTA給食試食会に合わせた給食調理場見学の受入れと対応 ・共同調理場の児童見学（1小学校）対応 ・中学校調理場の見学 市PTA給食委員の給食試食・調理場見学の対応	—	給食試食会が実施される場合は、学校給食についての資料提供など引き続き支援を行っていく。	平成30年度と同様の取組みを実施中	おいしい給食課
	小中学校における給食参観		←→				給食参観が実施される場合には、規則正しい食習慣や栄養バランス等、食と身体の関係について理解と関心が深まるよう給食を通じて啓発します。	各小・中学校において、保護者を対象に行われた給食試食会にあわせて、学校の実情に応じて給食参観が行われました。	—	給食参観が実施される場合は、学校給食についての資料提供など引き続き支援を行っていく。	平成30年度と同様の取組みを実施中	おいしい給食課
	生活習慣病予防対策事業			←→			生活習慣病予防を目的に、規則正しい食習慣や栄養バランスのとれた食生活が実践できるよう、普及・啓発を行います。	○PTA給食委員会（小学校） ・講演「朝食食べて、毎日元気！」 48人 ○健康フェア（大学）における朝食摂取の啓発 ・市内4大学5キャンパス計309名	—	依頼に基づき実施	○PTA給食委員会【予定】11月 ○健康フェア（大学）における朝食摂取の啓発 10月、11月に市内3大学	保健企画課
	ひらかた食育Q&A（再掲）				←→		食についての基礎的な知識に関する問題集「食育Q&A」を作成・配布し、幅広い世代に啓発を行います。	市内の保育所（園）、幼稚園、認定こども園、小中学校に配付するとともに、食育カーニバルをはじめとするイベント等の参加者への配付を行った。 配付実績 ・幼児用：3,495冊 ・小学生用：4,078冊 ・中高生用：3,816冊 ・大人用：1,194冊 合計：12,583冊	—	昨年度は、イベント等の機会を活用し、計画している配付数を達成できた。 今後も継続して、配付を行い、活用を推進する。 また、配付時に同封している各教育機関からのアンケートを踏まえ、必要に応じて見直しを行う。	引き続き、市内の保育所（園）、幼稚園、認定こども園、小中学校や、各種イベント等で配付する。 アンケート結果を踏まえて、「幼児用」Q&Aの問題や内容の見直しを行う。	健康総務課

方向性	取組名	対象となるライフステージ					事業概要	平成30年度(2018年度)の取組実績	課題	課題に対する対応策・今後の方向性	令和元年度(2019年度)の取組実績及び予定	担当課
		乳幼児期	児童生徒期	青年期	壮年期	高齢期						
(1) 生活習慣病予防のための食育推進 【関連指標⑧、⑨、⑪】	生活習慣病予防対策事業(再掲)		←————→				生活習慣病予防を目的に、規則正しい食習慣や栄養バランスのとれた食生活が実践できるよう、普及・啓発を行います。	○地域・職域(北大阪商工会議所、協会けんぽ等)における健康診断を利用した高血圧予防等の啓発 ○ひらかた健康優良企業に対する健康教育 ・食生活改善セミナー 体重をコントロールして健康に! 29名 ・朝食食べて、健康! いい仕事! 9名 ○PTA給食委員会(小学校) ・講演「朝食食べて、毎日元気!」 48人 ○健康フェア(大学)における朝食摂取の啓発 ・市内4大学5キャンパス計309名	—	依頼に基づき実施	○地域・職域(北大阪商工会議所、協会けんぽ等)における健康診断を利用した高血圧予防等の啓発 ○PTA給食委員会【予定】11月 ○健康フェア(大学)における朝食摂取の啓発 10月、11月に市内3大学	保健企画課
	生活習慣病予防のための教室			←————→			バランスの良い食事や減塩についての講義、野菜のクッキングなど、生活習慣病予防のための教室を実施します。	・生活習慣病とからだのミカタ教室 12回53人 ・チャレンジ! 野菜をたべよう~野菜お手軽クッキング~ 7回143人	—	・ミカタ教室: 定例開催を9回に減らし、出前講座形式による実施を開始し、地域での開催へシフトしていく。 ・野菜クッキング: 継続して実施	ミカタ教室は4~6月実施し、7、8月は開催していない。9月以降は隔月実施予定。野菜クッキングは、昨年同様隔月実施。	保健センター
	血糖コントロールセミナー			←————→			血糖値の高い人を対象とした連続講座を開催し、生活習慣や食生活改善の講義、個別相談を実施します。	・5クール(1クール3回コース)のべ228人	—	継続して実施	5クール実施予定	保健センター
	栄養相談・健康相談			←————→			生活習慣病予防のための個別の栄養相談(食生活指導)や、家庭訪問による健康づくりや生活習慣病予防のための相談・指導を実施します。	・成人、高齢者への健康相談 4068人 ・成人、高齢者への栄養相談 83人	—	継続して実施	栄養相談は保健センターと北部リーフで実施	保健センター
	特定保健指導				←————→		メタボリックシンドロームに着目した生活習慣病予防のための保健指導を実施します。また、ハイリスク者を対象とした生活習慣や食生活改善の個別指導を実施します。	特定健康診査の結果、特定保健指導の対象となった人に特定保健指導を実施。平成30年度(令和元年7月末現在)272人(初回面接実施率11.2%)に実施。	特定保健指導の利用率が低いのが課題。	平成30年度より集団健診時に特定保健指導の分割実施を導入。利用率向上を目指す。	集団健診の実施回数を増やし特定保健指導の分割実施の機会を増やす予定。	国民健康保険室



方向性	取組名	対象となるライフステージ					事業概要	平成30年度(2018年度)の取組実績	課題	課題に対する対応策・今後の方向性	令和元年度(2019年度)の取組実績及び予定	担当課
		乳幼児期	児童生徒期	青年期	壮年期	高齢期						
(1) 生活習慣病予防のための食育推進 【関連指標⑧、⑨、⑪】	ひらかた食育Q&A(再掲)						食についての基礎的な知識に関する問題集「食育Q&A」を作成・配布し、幅広い世代に啓発を行います。	市内の保育所(園)、幼稚園、認定こども園、小中学校に配付するとともに、食育カーニバルをはじめとするイベント等の参加者への配付を行った。 配付実績 ・幼児用：3,495冊 ・小学生用：4,078冊 ・中高生用：3,816冊 ・大人用：1,194冊 合計：12,583冊	—	昨年度は、イベント等の機会を活用し、計画している配付数を達成できた。今後も継続して、配付を行い、活用を推進する。また、配付時に同封している各教育機関からのアンケートを踏まえ、必要に応じて見直しを行う。	引き続き、市内の保育所(園)、幼稚園、認定こども園、小中学校や、各種イベント等で配付する。アンケート結果を踏まえて、「幼児用」Q&Aの問題や内容の見直しを行う。	健康総務課
	健康教育(成人)						生活習慣病予防や、健康の保持・増進を目的とし、健康や食に関する正しい知識の普及を図ることを目的として依頼に応じて実施	20回 699人	—	継続して実施	継続して実施	保健センター
	ひらかたカラダづくりトライアル(バーチャル版)						50回以上主食・主菜・副菜をそろえた食事を食べた記録用紙を提出された方に達成証を進呈	バランストライ達成者数 42人	現在の達成条件が第3次食育推進計画の指標である、主食、主菜、副菜をそろえた食事の習慣化に向けた取り組みと差異が生じている。	第3次食育推進計画の指標である、主食、主菜、副菜をそろえた食事の習慣化に向けた達成条件への検討及び記録用紙の変更	令和2年度より、第3次食育推進計画の指標を踏まえた達成条件に変更して実施できるよう検討中	保健センター
	枚方キッチン						食に対して無関心な層への啓発を図ることを目的に、広報ひらかた(裏表紙)において、おすすめレシピとテーマに沿った食や栄養に関するポイントを掲載します。	毎月の広報ひらかた(裏表紙)に、レシピ及び栄養に関する説明を記載。	—	平成30年10月～テーマを地元野菜を使ったレシピへと変更	令和元年9月より日本型食生活の推進につながる地元野菜を使ったレシピ紹介に変更予定 保育所においては、「枚方キッチン」に代えて、定期的に配布している給食だよりや献立表、ホームページなどで、食や栄養に関するポイントを掲載して情報発信を行う。	保健センター 子育て運営課 おいしい給食課

方向性	取組名	対象となるライフステージ					事業概要	平成30年度(2018年度)の取組実績	課題	課題に対する対応策・今後の方向性	令和元年度(2019年度)の取組実績及び予定	担当課
		乳幼児期	児童生徒期	青年期	壮年期	高齢期						
(2) 高齢者の低栄養予防のための食育推進 【関連指標⑧、⑨、⑪】	歯周病検診			←→			35歳から70歳までの5歳ごとの節目で、歯周病検診を実施します。	・受診者 1621人	—	継続して実施	継続して実施	保健センター
	まんてん教室					↔	高齢者の低栄養の改善および口腔機能の向上を目的に、栄養バランスを考えた簡単な献立の立て方等の講義・実技(1回目)と、個人に合った方法で食生活を良くしていくためのアドバイスを行うための個別相談(2回目)を行います。	・5クール(1クール2回コース)のべ53人	—	継続して実施	5クール実施予定	保健センター
	後期高齢者歯科健康診査					↔	満75歳以上の生活保護受給者、中国残留邦人等の方に、誤嚥性肺炎や口腔機能の低下を予防するために歯科健康診査を実施します	・受診者 5人	—	平成30年度より対象を満75歳以上の生活保護受給者、中国残留邦人等の方へ変更	継続して実施	保健センター
	8020達成者表彰					↔	枚方市歯科医師会と連携し、20歯以上の健全な歯を持つ80歳以上の方を表彰することで、市民に対する歯育推進の啓発を行います。	枚方市歯科医師会と連名で、達成者177名に表彰状を授与した。 例年「枚方市健康・医療・福祉フェスティバル」において、表彰式を実施しているが、台風接近の影響により、同イベントは中止となった。	—	今後も「枚方市健康・医療・福祉フェスティバル」において、継続して表彰を実施していく。	第31回枚方市健康・医療・福祉フェスティバル(令和元年10月27日開催)にて表彰実施。	健康総務課
	ひらかた食育Q&A(再掲)	←→						食についての基礎的な知識に関する問題集「食育Q&A」を作成・配布し、幅広い世代に啓発を行います。	市内の保育所(園)、幼稚園、認定こども園、小中学校に配付するとともに、食育カーニバルをはじめとするイベント等の参加者への配付を行った。 配付実績 ・幼児用：3,495冊 ・小学生用：4,078冊 ・中高生用：3,816冊 ・大人用：1,194冊 合計：12,583冊	—	昨年度は、イベント等の機会を活用し、計画している配付数を達成できた。今後も継続して、配付を行い、活用を推進する。また、配付時に同封している各教育機関からのアンケートを踏まえ、必要に応じて見直しを行う。	引き続き、市内の保育所(園)、幼稚園、認定こども園、小中学校や、各種イベント等で配付する。アンケート結果を踏まえて、「幼児用」Q&Aの問題や内容の見直しを行う。

方向性	取組名	対象となるライフステージ					事業概要	平成30年度(2018年度)の取組実績	課題	課題に対する対応策・今後の方向性	令和元年度(2019年度)の取組実績及び予定	担当課
		乳幼児期	児童生徒期	青年期	壮年期	高齢期						
(3) 歯と口腔の健康づくりの推進 【関連指標⑩、⑪】	乳幼児健康診査(再掲)	↔		↔			乳幼児健康診査や健康相談の場で、子どもの生活習慣や食事に関する相談や啓発を行います。	・4か月児健康診査 2670人 ・1歳6か月児健康診査 2827人(うち栄養相談 235人) ・2歳6か月児歯科健康診査 2736人(うち栄養相談 177人) ・3歳6か月児健康診査 2869人(うち栄養相談 144人) ・健診Aのべ333人(うち栄養相談 58人)	—	継続して実施	引き続き、乳幼児健康診査及び健康相談を実施	保健センター
	保育所(園)による歯科健康診断	↔					各公立保育所において、歯科検診を実施します。	公立保育所12園において、歯科医師による検診を6月実施	—	継続して実施	継続して実施	子育て運営課
	離乳食講習会・幼児食講習会(再掲)	↔		↔			離乳食や幼児食に関する講座や調理実習を開催し、望ましい生活リズムや食事に関する啓発を行います。	・ぴよぴよ離乳食講習会 24回 463人 ・ステップアップ離乳食講習会 12回 223人 ・ぱくぱく幼児食講習会 5回 69人 ・親子で楽しくクッキング 2回 58人	—	継続して実施	引き続き、離乳食講習会・幼児食講習会を実施	保健センター
	ブラッシング指導	←————→					歯と口の健康づくりのため、歯科衛生士がブラッシング指導を行います。	・ブラッシング指導(歯科衛生士)春と秋に、枚方市立全幼稚園、小学校で、各年齢に応じた歯科衛生士によるブラッシング指導を行いました。 実施学年は学校で決めています。	—	引き続き歯科健診時に指導を行う。	継続して実施	子育て運営課 学務課
	学校園歯科健康診断	↔					学校保健安全法第13条第1項に基づき実施している定期健康診断です。	枚方市立全幼稚園、小中学校で4月～6月にかけて歯科検診を行いました。(33,698人)	—	学校保健安全法に基づき継続して実施	枚方市立全幼稚園、小中学校で4月～6月にかけて歯科検診を行いました。(33,175人)	学務課
	よい歯のコンクール	↔		↔			3歳6か月健康診査を受診した幼児と保護者に対し、そろってよい歯を保っている方を表彰します。	・地区審査対象者数 43人	—	継続して実施	継続して実施	保健センター

方向性	取組名	対象となるライフステージ					事業概要	平成30年度(2018年度)の取組実績	課題	課題に対する対応策・今後の方向性	令和元年度(2019年度)の取組実績及び予定	担当課
		乳幼児期	児童生徒期	青年期	壮年期	高齢期						
(3) 歯と口腔の健康づくりの推進 【関連指標⑩、⑪】	妊産婦歯科健康診査			←→			妊産婦のう蝕、歯周疾患を早期発見・早期予防し、妊婦および胎児の健全な発育に資することを目的に妊産婦歯科健康診査を実施します。	・受診者数 771人	—	継続して実施	継続して実施	保健センター
	成人歯科健康診査			←→			1歳6か月児健康診査、2歳6か月児歯科健康診査に我所した保護者を対象に歯科健診を実施し、歯育を推進します。	・1歳6か月児健康診査 1276人 ・2歳6か月児しか健康診査 1238人	—	継続して実施	継続して実施	保健センター
	歯周病検診(再掲)			←→			35歳から70歳までの5歳ごとの節目で、歯周病検診を実施します。	・受診者 1621人	—	継続して実施	継続して実施	保健センター
	在宅訪問歯科事業			←→			歯科健康診査受診のために出向くことが困難な人の口腔内のう蝕、歯周病、義歯の不適合、口腔清掃状態等の状況を改善し、口腔機能の回復を図ることを目的とし、訪問による歯科健康診査を実施します。	・実施件数 1件	—	継続して実施	継続して実施	保健センター
	障害者(児)施設歯科健康診査		←→				障害者(児)施設等に入所、通所され、歯科保健医療サービスを受ける事が困難な方に対し、施設において歯科健康診査を実施します。	・22施設 23回 203人	—	継続して実施	継続して実施	保健センター
	後期高齢者歯科健康診査(再掲)					←→	満75歳以上の生活保護受給者、中国残留邦人等の方に、誤嚥性肺炎や口腔機能の低下を予防するために歯科健康診査を実施します	・受診者 5人	—	平成30年度より対象を満75歳以上の生活保護受給者、中国残留邦人等の方へ変更	継続して実施	保健センター
	8020達成者表彰(再掲)					←→	枚方市歯科医師会と連携し、20歯以上の健全な歯を持つ80歳以上の方を表彰することで、市民に対する歯育推進の啓発を行います。	枚方市歯科医師会と連名で、達成者177名に表彰状を授与した。 例年「枚方市健康・医療・福祉フェスティバル」において、表彰式を実施しているが、台風接近の影響により、同イベントは中止となった。	—	今後も「枚方市健康・医療・福祉フェスティバル」において、継続して表彰を実施していく。	第31回枚方市健康・医療・福祉フェスティバル(令和元年10月27日開催)にて表彰実施。	健康総務課

方向性	取組名	対象となるライフステージ					事業概要	平成30年度(2018年度)の取組実績	課題	課題に対する対応策・今後の方向性	令和元年度(2019年度)の取組実績及び予定	担当課
		乳幼児期	児童生徒期	青年期	壮年期	高齢期						
【関連指標⑩、⑪】 (3) 歯と口腔の健康づくりの推進	まんてん教室(再掲)					↔	高齢者の低栄養の改善および口腔機能の向上を目的に、栄養バランスを考えた簡単な献立の立て方等の講義・実技(1回目)と、個人に合った方法で食生活を良くしていくためのアドバイスを行うための個別相談(2回目)を行います。	・5クール(1クール2回コース)のべ53人	—	継続して実施	5クール実施予定	保健センター
	ひらかた食育Q&A(再掲)	←				→	食についての基礎的な知識に関する問題集「食育Q&A」を作成・配布し、幅広い世代に啓発を行います。	市内の保育所(園)、幼稚園、認定こども園、小中学校に配付するとともに、食育カーニバルをはじめとするイベント等の参加者への配付を行った。 配付実績 ・幼児用: 3,495冊 ・小学生用: 4,078冊 ・中高生用: 3,816冊 ・大人用: 1,194冊 合計: 12,583冊	—	昨年度は、イベント等の機会を活用し、計画している配付数を達成できた。今後も継続して、配付を行い、活用を推進する。また、配付時に同封している各教育機関からのアンケートを踏まえ、必要に応じて見直しを行う。	引き続き、市内の保育所(園)、幼稚園、認定こども園、小中学校や、各種イベント等で配付する。アンケート結果を踏まえて、「幼児用」Q&Aの問題や内容の見直しを行う。	健康総務課
【関連指標⑧、⑨、⑩、⑪】 (4) 食の自立支援と食生活改善の促進(高齢者・障害者)	身体障害者配食サービス	←				→	65歳未満の重度の身体障害者で一人暮らしの方、またはこれに準ずると認められる場合で、身体の障害等により買物及び調理が出来ないため食事の確保が困難な方に一日2食を限度として、食事を配達し、安否確認を行います。	・対象者数 3人 ・配食数 のべ 318食 ・助成金額 63,600円	—	利用者数は前年度と同数であった。今後も配食事業者と連携し、継続して実施していく。	令和元年度(2019年度)の予定 ・対象者数 2人 ・配食数 のべ 300食 ・助成金額 60,600円	障害福祉室
	在宅訪問歯科事業(再掲)					←	歯科健康診査受診のために出向くことが困難な人の口腔内のう蝕、歯周病、義歯の不適合、口腔清掃状態等の状況を改善し、口腔機能の回復を図ることを目的とし、訪問による歯科健康診査を実施します。	・実施件数 1件	—	継続して実施	継続して実施	保健センター
	栄養士派遣指導事業					↔	栄養士が自宅を訪問し、規則正しくバランスの良い食事の摂取等、食に関する助言や指導を行います。	利用実人数 20人 訪問回数48回	—	引き続き事業を継続し、利用者拡充に努めていく	継続して実施	地域包括ケア推進課
	元気はつらつ健康づくり事業					↔	身近な地域での介護予防講座の実施により、地域の特徴に応じた介護予防の普及啓発を図ります。	講座実施回数74回(うち口腔・栄養関係は31回) 延べ人数1,287人(うち口腔・栄養関係は616人)	—	引き続き事業を継続し、普及啓発に努めていく	継続して実施	地域包括ケア推進課

方向性	取組名	対象となるライフステージ					事業概要	平成30年度(2018年度)の取組実績	課題	課題に対する対応策・今後の方向性	令和元年度(2019年度)の取組実績及び予定	担当課
		乳幼児期	児童生徒期	青年期	壮年期	高齢期						
(4) 食の自立(食害者)【支援と食生活改善の促進(高齢者・障害者)】 ⑧、⑨、⑩、⑪	まんてん教室(再掲)					 高齢者の低栄養の改善および口腔機能の向上を目的に、栄養バランスを考えた簡単な献立の立て方等の講義・実技(1回目)と、個人に合った方法で食生活を良くしていくためのアドバイスを行うための個別相談(2回目)を行います。	・5クール(1クール2回コース)のべ53人	—	継続して実施	5クール実施予定	保健センター	
	ひらかた食育Q&A(再掲)					 食についての基礎的な知識に関する問題集「食育Q&A」を作成・配布し、幅広い世代に啓発を行います。	市内の保育所(園)、幼稚園、認定こども園、小中学校に配付するとともに、食育カーニバルをはじめとするイベント等の参加者への配付を行った。 配付実績 ・幼児用：3,495冊 ・小学生用：4,078冊 ・中高生用：3,816冊 ・大人用：1,194冊 合計：12,583冊	—	昨年度は、イベント等の機会を活用し、計画している配付数を達成できた。今後も継続して、配付を行い、活用を推進する。また、配付時に同封している各教育機関からのアンケートを踏まえ、必要に応じて見直しを行う。	引き続き、市内の保育所(園)、幼稚園、認定こども園、小中学校や、各種イベント等で配付する。アンケート結果を踏まえて、「幼児用」Q&Aの問題や内容の見直しを行う。	健康総務課	

方向性	取組名	対象となるライフステージ					事業概要	平成30年度(2018年度)の取組実績	課題	課題に対する対応策・今後の方向性	令和元年度(2019年度)の取組実績及び予定	担当課
		乳幼児期	児童生徒期	青年期	壮年期	高齢期						
(5) 食の安全・安心の確保に向けた食育推進 【関連指標⑪、⑫】	消費者啓発教育事業		←				食品に関連する消費生活相談に応じるほか、食品表示等の知識の習得を目的とした市民講座を要望に応じて開催します。	・食品に関連する相談件数202件 ・消費生活セミナー 平成31年1月30日開催 「おいしいチョコレートから学ぶエシカル消費」	—	引き続き食品に関連する相談に応じます。 また食品表示等の知識の習得を目的とした市民講座を要望に応じて開催します。	・食品に関連する相談件数59件(令和元年7月末時点) ・消費生活セミナー 令和元年6月7日開催 「おやつにまつわるエトセトラ～おやつのよもやま話～」	消費生活センター
	食中毒予防三原則の周知		←				食中毒予防の三原則を理解するなど、食の安全性に関する正しい知識をもち実践します。料理教室や講習会開催時に、食中毒予防の呼びかけをするなど食中毒予防対策の普及・啓発を行います。	・保育所・福祉施設等の給食調理担当者、市民団体及び食品業者団体等に対して、食中毒予防について講習 ・食中毒予防街頭キャンペーン(夏期・冬期)の実施 ・小・中学校・市施設での食中毒予防啓発ポスター掲示 ・広報ひらかた・FMひらかた・ホームページでの食中毒予防情報の発信 ・PTA等が地域行事の模擬店で食品を提供する際に「臨時出店届」を受付し、適切な衛生管理・食中毒予防を啓発	—	今後も講習会・街頭キャンペーン・広報・窓口等あらゆる機会をとらえて、食品等事業者及び市民に対して食の安全性に関する正しい知識の啓発を行う。	・給食調理担当者、市民団体及び食品業者団体等に対して、食中毒予防について講習 ・食中毒予防街頭キャンペーン(夏期・冬期)の実施 ・小・中学校・市施設での食中毒予防啓発ポスター掲示 ・広報ひらかた・FMひらかた・ホームページでの食中毒予防情報の発信 ・「臨時出店届」を受付時に適切な衛生管理・食中毒予防を啓発	保健衛生課
	ひらかた食育Q&A(再掲)		←					食についての基礎的な知識に関する問題集「食育Q&A」を作成・配布し、幅広い世代に啓発を行います。	市内の保育所(園)、幼稚園、認定こども園、小中学校に配付するとともに、食育カーニバルをはじめとするイベント等の参加者への配付を行った。 配付実績 ・幼児用：3,495冊 ・小学生用：4,078冊 ・中高生用：3,816冊 ・大人用：1,194冊 合計：12,583冊	—	昨年度は、イベント等の機会を活用し、計画している配付数を達成できた。今後も継続して、配付を行い、活用を推進する。また、配付時に同封している各教育機関からのアンケートを踏まえ、必要に応じて見直しを行う。	引き続き、市内の保育所(園)、幼稚園、認定こども園、小中学校や、各種イベント等で配付する。アンケート結果を踏まえて、「幼児用」Q&Aの問題や内容の見直しを行う。

方向性	取組名	対象となるライフステージ					事業概要	平成30年度(2018年度)の取組実績	課題	課題に対する対応策・今後の方向性	令和元年度(2019年度)の取組実績及び予定	担当課
		乳幼児期	児童生徒期	青年期	壮年期	高齢期						
(6) 衛生管理・生産者への研修会の開催等の推進【関連指標⑫】	衛生指導		↔				給食や保健体育を通じ、衛生指導を実施するほか、養護教諭を中心とした指導と啓発を行います。	・衛生指導の実施 学校給食調理場を立入検査し、栄養担当教諭等に対して食中毒予防のための衛生指導及び啓発を行い、改善結果報告を受理	—	今後も教育委員会と連携し、学校給食への衛生指導を継続して実施する。	・衛生指導の実施 学校給食調理場を立入検査し、栄養担当教諭等に対して食中毒予防のための衛生指導及び啓発を実施	保健衛生課
	衛生管理研修		↔				学校給食の食中毒予防対策として、関係者に「学校給食衛生管理の基準」を基に衛生研修を行い、学校給食の衛生管理の徹底を行います。	・衛生管理研修の実施 学校給食調理場の立入検査結果を踏まえ、調理担当者等に対して研修を実施	—	今後も立入検査結果等を踏まえ、学校給食関係者への衛生研修を継続して実施する。	・衛生管理研修の実施 学校給食調理場の立入検査結果を踏まえ、調理担当者等に対して研修を実施	保健衛生課
	特定給食施設等を通じた食育の推進	←				→	特定多数人に対して継続的に食事を提供する施設に対して、施設管理者及び給食関係者等に栄養改善の見地から必要な指導を行い、給食内容の向上を図るとともに、喫食者に対しても給食を通じた健康づくりを推進します。	○特定給食施設等対象研修会 ・「特定給食施設等における食中毒予防のポイント～HACCP制度化に向けて～」 「歯と口の健康について」 85施設 99人 ・「正しく知ろう、食物アレルギー」 67施設 89人 ○特定給食講演会(大阪府全域連携事業) 枚方市保健所管内 61施設 64人	—	継続	○特定給食施設等対象研修会 令和元年5月24日 「特定給食施設等における食品衛生管理について」～食中毒予防のポイントとHACCP～ 74施設 89人 ○特定給食講演会【予定】 11月、12月	保健企画課
	農薬安全使用講習会				←	→	農産物への農薬等の使用について、生産者へ法令の遵守等を目的とした研修会を開催します。	平成30年7月28日 午前10時、午後2時 北河内農協(枚方中央・氷室・招提支店) 「肥料・農薬の使用について」 参加人数：57名	—	今後も、引き続き、農産物への農薬等の使用について、生産者へ法令の遵守等を目的とした研修会を開催します。	引き続き、農産物への農薬等の使用について、生産者へ法令の遵守等を目的とした研修会を開催します。	農業振興課

方向性	取組名	対象となるライフステージ					事業概要	平成30年度(2018年度)の取組実績	課題	課題に対する対応策・今後の方向性	令和元年度(2019年度)の取組実績及び予定	担当課
		乳幼児期	児童生徒期	青年期	壮年期	高齢期						
【関連指標①、③、④、⑤、⑥、⑧、⑩】ネットワークを生かした食育推進	食農体験学習支援事業(再掲)		↔				学校での栽培活動体験や農地を活用しての農業体験等を実施します。	小学生による農作業や試食等の体験 14小学校	農家の高齢化により実施の取りやめや、学校によっては近くに協力農家や実施できる農地がないなど課題はあるが、引き続き、実施。	農家の高齢化に対しては、農政全般の課題であり、新しい担い手の確保に努める。	新規就農者の確保等の農業者への支援を継続するとともに、引き続き、親子・異年齢・地域の方とともに農作業や試食等の体験を実施していく。	教育指導課 農業振興課
	小中学校における給食試食会(再掲)		↔				小学6年生を対象に、中学校給食の試食会を実施します。 また、保護者等を対象に給食試食会や調理場見学等を実施される場合にも、給食を提供し、規則正しい食習慣や栄養バランス等、食と身体の関係について理解と関心が深まるよう給食を通じて啓発します。	・中学校給食試食会 全小学校45校6年生の試食会実施 ・小学校給食試食会 PTA及び幼稚園の園児等対象の130回 ・PTA給食試食会に合わせた給食調理場見学の受入れと対応 ・共同調理場の児童見学(1小学校)対応 ・中学校調理場の見学 市PTA給食委員の給食試食・調理場見学の対応	—	給食試食会が実施される場合は、学校給食についての資料提供など引き続き支援を行っていく。	平成30年度と同様の取組を実施中	おいしい給食課
	農業振興補助事業			↔			安全で新鮮な地元産の野菜を消費者に提供するため、農業者への指導や情報提供を実施します。	農産物直販事業(市内各所で、農業者団体が対面販売で行う直販) ・団体数 9団体 ・開催場所 9ヶ所 ・開催回数 741回	農業者の高齢化により、直販の実施回数が減少しているなど課題はあるが、引き続き支援。	農家の高齢化に対しては、農政全般の課題であり、新しい担い手の確保に努める。	新規就農者の確保等の農業者への支援を継続するとともに、引き続き、農産物直販事業(市内各所で、農業者団体が対面販売で行う直販)を支援。	農業振興課
	農業ふれあいツアー			↔			市内農家が栽培した新鮮な農産物を直接市民が収穫する等の体験事業を実施します。	・農業ふれあいツアー 開催回数 18回 参加人数 2,125人	農業者の高齢化等により、収穫物の種類や実施回数が減少など課題はあるが、引き続き実施。	農家の高齢化に対しては、農政全般の課題であり、新しい担い手の確保に努める。	新規就農者の確保等の農業者への支援を継続するとともに、引き続き、農業ふれあいツアーを実施。	農業振興課
	農業まつり			↔			農業まつりを開催し、農業者と都市住民の交流を図ります。	・農業まつりの開催 11月17日(土) 来場者数 3,000人	—	引き続き実施。	引き続き、農業まつりを開催。	農業振興課

方向性	取組名	対象となるライフステージ					事業概要	平成30年度(2018年度)の取組実績	課題	課題に対する対応策・今後の方向性	令和元年度(2019年度)の取組実績及び予定	担当課
		乳幼児期	児童生徒期	青年期	壮年期	高齢期						
(2) 多様な暮らしに対応した豊かな食体験につながる食育推進【関連指標⑬】	子どもの居場所づくり推進事業	←————→					子どもたちに食事や学習支援や団らんの場の提供を行い、子どもたちを見守る活動に取り組む団体を支援します。	平成30年度は、引き続き、19団体21箇所での実施となった。各実施団体による取組みが効果的になされるよう、地域や小学校等との関係づくりを支援するとともに、食材の寄付やボランティアの募集、取次ぎを行うなど、団体の安定的な運営のため多方面からの支援を行った。 開催回数：440回(1回の開催当たりの子どもの平均参加人数約26人)	現在設置されていない小学校区などの地域を中心とした子ども食堂の新たな開設。また、現在、実施されている団体が効果的、安定的に事業を実施できるよう、人材や食材の確保、地域や学校との連携などについて、様々な支援が求められている。	子ども食堂が新たに開設されるよう、制度の周知など働きかけを行っていく。また、各実施団体と地域や小学校等の関係機関などとの連携のほか、食材の寄附やボランティアなどの支援について、引き続き、コーディネート支援に取り組む。	食材の提供について、新たな事業者からの申し出により、毎月2回子ども食堂への取り次ぎを行っている。また、寄附金を活用し、昨年度に引き続き、子ども食堂に米の提供を行う予定である。 引き続き、子ども食堂が新たに開設されるよう、制度の周知など働きかけを行っていくとともに、各実施団体と地域や小学校等の関係機関などとの連携のほか、食材の寄附やボランティアなどの支援についても、コーディネート支援に取り組む。	子ども青少年政策課
	身体障害者配食サービス(再掲)	←————→					65歳未満の重度の身体障害者で一人暮らしの方、またはこれに準ずると認められる場合で、身体の障害等により買物及び調理が出来ないため食事の確保が困難な方に一日2食を限度として、食事を配達し、安否確認を行います。	<ul style="list-style-type: none"> 対象者数 3人 配食数 のべ 318食 助成金額 63,600円 	—	利用者数は前年度と同数であった。今後も配食事業者と連携し、継続して実施していく。	令和元年度(2019年度)の予定 <ul style="list-style-type: none"> 対象者数 2人 配食数 のべ 300食 助成金額 60,600円 	障害福祉室
	共食啓発事業	←————→					各種のイベントや、市の行う情報発信を通じて、共食の大切さや効果について広く啓発します。	毎年発行する「食育啓発リーフレット」において、共食をテーマとして作成し、学校園や地域コミュニティにおける回覧、各種イベントでの配付による啓発を行った。 育児に関する講習会や小学校における給食試食会での保護者への説明や、いきいきサロン活動への参加者への説明などの各種の事業で啓発を実施した。	—	引き続き各種イベント等の機会を活用し、啓発を行う。	市内大学にて実施する「健康フェア」で啓発を行う。育児に関する講習会や小学校における給食試食会での保護者への説明や、いきいきサロン活動への参加者への説明など、各種の事業で機会をとらえて啓発を行う。	健康総務課 保健企画課 保健センター

方向性	取組名	対象となるライフステージ					事業概要	平成30年度(2018年度)の取組実績	課題	課題に対する対応策・今後の方向性	令和元年度(2019年度)の取組実績及び予定	担当課
		乳幼児期	児童生徒期	青年期	壮年期	高齢期						
(3) 地域における食育の環境づくり 【関連指標⑬、⑮】	子ども料理教室		↔				生涯学習市民センターにおいて市民と連携して、子ども料理教室や親子料理教室などを実施します。	開催回数：4回	—	継続して実施	4回開催予定	生涯学習課
	親子料理教室			↔			生涯学習市民センターにおいて市民と連携して、子ども料理教室や親子料理教室などを実施します。	開催回数：0回	生涯学習課では親子を対象に、様々な生涯学習の場を提供しています。毎年度テーマを変更して実施しており、昨年度は料理教室が実施されませんでした。	継続して実施	1回開催予定	生涯学習課
	健康づくりボランティア講座				↔		地区組織活動を実践する人材の育成として、健康づくり食生活改善推進員(ヘルスマイト)や健康リーダーなどの健康づくりボランティアを養成します。	・開催回数 9回のべ108人(うち講座修了者数13人)	応募数が定員に満たない状況が続いている	周知期間や受付方法などを変更し、受講生の増加につなげる。	11回開催(R1.9月~R2.2月)	保健センター
	いきいきサロン健康づくりサポーター養成講座				↔		地域で介護予防活動の拡大に取り組むボランティアを養成します。	・開催回数 2回のべ137人(講座修了者数65人)	—	継続して実施	8月21日と28日実施	保健センター
	健康料理教室				↔		健康づくりボランティアを中心に、生涯学習市民センターなどを活動場所とし、健康料理教室、健康講座等を実施します。	・枚方市健康づくり食生活改善協議会による教室 ふれあいクッキング 15回のべ360人 ・枚方市健康リーダーによる教室 健康料理教室 7回のべ166人 合計 22回 526人	枚方市健康リーダーによる健康料理教室の開催回数の減少	従来の健康料理教室に加え、ボランティアに負担の少ない栄養講座を実施	ボランティアに負担の少ない栄養講座に取り組みながら、継続して実施	保健センター
	健康づくりボランティアを対象としたフォローアップ研修				↔		健康づくりボランティアのスキルアップを目的に、健康づくりに関する知識や企画調整のための講義、調理講習会を実施します。	・開催回数 4回 114人	—	継続して実施	継続して実施	保健センター
	男の料理教室					↔	生涯学習市民センターにおいて市民と連携して、男性の自立と健全な食生活の推進を目的に、料理経験のない男性を対象とした料理教室を実施します。	開催回数：4回	—	継続して実施	4回開催予定	生涯学習課

方向性	取組名	対象となるライフステージ					事業概要	平成30年度(2018年度)の取組実績	課題	課題に対する対応策・今後の方向性	令和元年度(2019年度)の取組実績及び予定	担当課
		乳幼児期	児童生徒期	青年期	壮年期	高齢期						
(3) 地域における食育の環境づくり 【関連指標⑬、⑮】	食環境づくり推進事業						食を取り巻く環境づくりを整備するため、外食産業や職域、スーパーマーケットやコンビニエンスストア等を介し、たばこ対策等も含めた多様な健康づくりの推進を図ります。	○大阪ヘルシー外食推進協議会事業 ・「おすすめ！わが店のヘルシーメニュー2018人気コンテスト」(市内飲食店4店の応募に関する支援) ・「うちのお店も健康づくり応援団」(新規加入店数：7店) ・ヘルシーメニュー提供啓発(市内飲食店186店) ○飲食店を通じた健康づくり推進事業 ・「ひらかた健康3ツ星レストラン2018」(提供期間：9月～12月末) 協力店舗数 22店舗 ヘルシーメニュー利用食数2075食 ○各種イベントにおける食環境改善の啓発 「枚方市健康・医療・福祉フェスティバル」や「ひらかた食育カーニバル」、食育月間、地域・職域における健康診断を通じた啓発	ひらかた健康3ツ星レストランにおいて、実施方法を検討中	ヘルシーメニューの利用機会の増加を図るため、利用が多々みられる「中食」に注目し、「中食」を提供するスーパーマーケット等に協力を募る。	○大阪ヘルシー外食推進協議会事業 ・「おすすめ！わが店のヘルシーメニュー2019人気コンテスト」(市内飲食店1店の応募に関する支援) ・「うちのお店も健康づくり応援団」(新規加入店数：3店)※10月末時点 ○飲食店を通じた健康づくり推進事業 「ひらかた健康3ツ星レストラン2019」 ヘルシーメニュー提供協力店舗数 19店舗 提供期間：9月～12月20日 スタンプラリー実施予定 ○各種イベントにおける食環境改善の啓発 「枚方市健康・医療・福祉フェスティバル」や「ひらかた食育カーニバル」、食育月間、地域・職域における健康診断を通じた啓発	保健企画課
	料理教室(一般向け)						生涯学習市民センターにおいて市民と連携して、料理教室を開催します。	開催回数：4回	—	継続して実施	4回開催予定	生涯学習課

方向性	取組名	対象となるライフステージ					事業概要	平成30年度(2018年度)の取組実績	課題	課題に対する対応策・今後の方向性	令和元年度(2019年度)の取組実績及び予定	担当課
		乳幼児期	児童生徒期	青年期	壮年期	高齢期						
(4) 食文化に関する啓発や情報発信の強化【関連指標⑪、⑫】	学校給食における行事食・郷土料理の提供		↔				子どもたちに地域の味や食材に慣れ親しむことができる機会をつくるため、学校給食に郷土料理や行事食をより一層取り入れるよう、学校給食会へはたらきかけます。	<ul style="list-style-type: none"> 行事食の提供 雑煮、田作り、黒豆(正月) いわし料理、福豆(節分) ちらしずし(ひなまつり) 赤飯(卒業祝い)等 郷土料理の提供 ごんぼ汁、じゃこまめ、くるみもち(枚方) 芋煮(山形)、ゴーヤチャンプル(沖縄)、こしね汁(群馬)等 旬の食材を取り入れた季節を感じる献立の提供 	—	全国各地の郷土料理を提供するよう計画し、献立作成を行っていく。	平成30年度と同様の取組みを実施中	おいしい給食課
	イベント等における地元食材を使ったレシピの配布			←→			イベントや料理教室において地元食材を使ったレシピを配布し市民への啓発を行います。	・配付数 約300部	—	継続して実施	継続して実施(イベント等を活用して配付数の増加を図る)	保健センター
	給食だより・ホームページ等による行事食等の情報発信	←→					保護者が子どもと行事食や郷土料理、地産地消(地元産食材の使用)について理解や関心を共有できるよう、給食だよりやホームページなどを通じて、情報を発信します。	<ul style="list-style-type: none"> 給食だよりや献立表、枚方キッチン(広報ひらかた)、ホームページ、クックパッド等による情報発信を行った 枚方の郷土料理献立に関する掲示資料を全小学校に配付した 小学5年生を対象に、農業振興課と連携し、れんげ栽培米に関する資料(クリアファイル)の提供を行った 	—	献立表をスーパーマーケットに掲示してもらうなどの取組みも合わせて、「おいしい給食」の情報発信に努める。	市内の大型スーパーマーケットに働きかけ、9月より給食便りを掲載するなど平成30年度と同様の取組みを実施中	おいしい給食課 教育指導課
	友好・交流都市物産展	←→					国内友好都市や市民交流都市等の野菜や海産物、乳製品等その都市の特産物を販売します。	日時：平成30年11月16日(金)・17日(土) 会場：市民会館大ホール前 来場者数：約7,000人	—	市民への各国内友好都市等の周知と、本市を含む各都市の魅力発信のため継続して実施していく。	日時：令和元年11月15日(金)・16日(土) 会場：市民会館大ホール前 主催：枚方市	産業文化政策課
	ひらかた食育カーニバル(再掲)	←→					市民の食育への関心を高めることを目的に、関係機関・団体と連携し、「ひらかた食育カーニバル」を開催することで、食育推進の啓発に取り組めます。	日時：平成31年3月3日(日) 会場：ラポールひらかた 主催：枚方市食育推進ネットワーク会議、枚方市教育委員会、枚方市 来場者数：のべ 6,295人	—	来場者数は概ね前年度と同数であった。今後も実行委員会を組織して関係機関と連携し、継続して実施していく。	日時：令和2年2月11日(祝) 会場：ラポールひらかた 主催：枚方市食育推進ネットワーク会議、枚方市教育委員会、枚方市	健康総務課

方向性	取組名	対象となるライフステージ					事業概要	平成30年度(2018年度)の取組実績	課題	課題に対する対応策・今後の方向性	令和元年度(2019年度)の取組実績及び予定	担当課
		乳幼児期	児童生徒期	青年期	壮年期	高齢期						
(4) 食文化に関する啓発や情報発信の強化 【関連指標⑪、⑯】	ひらかた食育Q&A (再掲)						食についての基礎的な知識に関する問題集「食育Q&A」を作成・配布し、幅広い世代に啓発を行います。	市内の保育所(園)、幼稚園、認定こども園、小中学校に配付するとともに、食育カーニバルをはじめとするイベント等の参加者への配付を行った。 配付実績 ・幼児用：3,495冊 ・小学生用：4,078冊 ・中高生用：3,816冊 ・大人用：1,194冊 合計：12,583冊	—	昨年度は、イベント等の機会を活用し、計画している配付数を達成できた。今後も継続して、配付を行い、活用を推進する。また、配付時に同封している各教育機関からのアンケートを踏まえ、必要に応じて見直しを行う。	引き続き、市内の保育所(園)、幼稚園、認定こども園、小中学校や、各種イベント等で配付する。アンケート結果を踏まえて、「幼児用」Q&Aの問題や内容の見直しを行う。	健康総務課
	枚方キッチン (再掲)						食に対して無関心な層への啓発を図ることを目的に、広報ひらかた(裏表紙)において、おすすめレシピとテーマに沿った食や栄養に関するポイントを掲載します。	毎月の広報ひらかた(裏表紙)に、レシピ及び栄養に関する説明を記載。	—	平成30年10月～テーマを地元野菜を使ったレシピへと変更	令和元年9月より日本型食生活の推進につながる地元野菜を使ったレシピ紹介に変更予定 保育所においては、「枚方キッチン」に代えて、定期的に配布している給食だよりや献立表、ホームページなどで、食や栄養に関するポイントを掲載して情報発信を行う。	保健センター 子育て運営課 おいしい給食課

方向性	取組名	対象となるライフステージ					事業概要	平成30年度(2018年度)の取組実績	課題	課題に対する対応策・今後の方向性	令和元年度(2019年度)の取組実績及び予定	担当課
		乳幼児期	児童生徒期	青年期	壮年期	高齢期						
(1) 地産地消の促進 【関連指標⑪、⑰、⑱、⑳】	小学校給食における地元農産物の使用		↔				学校給食で地元の農産物が取り入れられるよう、地元農産物の生産や調整を行います。	・地元生産者と年間の使用品目、量を調整するとともに、使用品目数の増加を図った。 ・小学校給食で使用する野菜類については、市内生産者の協力を得て、枚方産を19品目19.3t(野菜類全体購入量に対する枚方産の野菜購入量の割合:3.7%)を使用 ・学校給食で使用する米・野菜類全体購入量に対する、枚方産及び府内産購入量の割合は、32.3%	生産者の高齢化等による生産規模の縮小から、学校給食での使用量も減少しつつある点が課題である。	今後も、使用量および使用品目が増加するよう生産者およびJA北河内等と調整を行っていく。	令和元年7月末現在の実績枚方産6品目13.8t(野菜類全体購入量に対する枚方産の野菜購入量の割合:7.9%)を使用 ・学校給食で使用する米・野菜類全体購入量に対する、枚方産及び府内産購入量の割合は、25.0%	おいしい給食課
	農業振興補助事業(再掲)			↔			安全で新鮮な地元産の野菜を消費者に提供するため、農業者への指導や情報提供を実施します。	農産物直販事業(市内各所で、農業者団体が対面販売で行う直販) ・団体数 9団体 ・開催場所 9ヶ所 ・開催回数 741回	農業者の高齢化により、直販の実施回数が増えているなど課題はあるが、引き続き支援。	農家の高齢化に対しては、農政全般の課題であり、新しい担い手の確保に努める。	新規就農者の確保等の農業者への支援を継続するとともに、引き続き、農産物直販事業(市内各所で、農業者団体が対面販売で行う直販)を支援。	農業振興課
	イベント等における地元食材を使ったレシピの配布(再掲)			↔			イベントや料理教室において地元食材を使ったレシピを配布し市民への啓発を行います。	・配付数 約300部	—	継続して実施	継続して実施(イベント等を活用して配付数の増加を図る)	保健センター
	農業ふれあいツアー(再掲)		↔				市内農家が栽培した新鮮な農産物を直接市民が収穫する等の体験事業を実施します。	・農業ふれあいツアー 開催回数 18回 参加人数 2,125人	農業者の高齢化等により、収穫物の種類や実施回数が減少など課題はあるが、引き続き実施。	農家の高齢化に対しては、農政全般の課題であり、新しい担い手の確保に努める。	新規就農者の確保等の農業者への支援を継続するとともに、引き続き、農業ふれあいツアーを実施。	農業振興課
	農業まつり(再掲)		↔				農業まつりを開催し、農業者と都市住民の交流を図ります。	・農業まつりの開催 11月17日(土) 来場者数 3,000人	—	引き続き実施。	引き続き、農業まつりを開催。	農業振興課
	ひらかた食育Q&A(再掲)		↔				食についての基礎的な知識に関する問題集「食育Q&A」を作成・配布し、幅広い世代に啓発を行います。	市内の保育所(園)、幼稚園、認定こども園、小中学校に配付するとともに、食育カーニバルをはじめとするイベント等の参加者への配付を行った。 配付実績 ・幼児用:3,495冊 ・小学生用:4,078冊 ・中高生用:3,816冊 ・大人用:1,194冊 合計:12,583冊	—	昨年度は、イベント等の機会を活用し、計画している配付数を達成できた。今後も継続して、配付を行い、活用を推進する。また、配付時に同封している各教育機関からのアンケートを踏まえ、必要に応じて見直しを行う。	引き続き、市内の保育所(園)、幼稚園、認定こども園、小中学校や、各種イベント等で配付する。アンケート結果を踏まえて、「幼児用」Q&Aの問題や内容の見直しを行う。	健康総務課

方向性	取組名	対象となるライフステージ					事業概要	平成30年度(2018年度)の取組実績	課題	課題に対する対応策・今後の方向性	令和元年度(2019年度)の取組実績及び予定	担当課
		乳幼児期	児童生徒期	青年期	壮年期	高齢期						
【(2) 農を身近に感じる食育推進】	食農体験学習支援事業(再掲)		↔				学校での栽培活動体験や農地を活用しての農業体験等を実施します。	小学生による農作業や試食等の体験 14小学校	農家の高齢化により実施の取りやめや、学校によっては近くに協力農家や実施できる農地がないなど課題はあるが、引き続き、実施。	農家の高齢化に対しては、農政全般の課題であり、新しい担い手の確保に努める。	新規就農者の確保等の農業者への支援を継続するとともに、引き続き、親子・異年齢・地域の方とともに農作業や試食等の体験を実施していく。	教育指導課 農業振興課
	農業ふれあいツアー(再掲)	←					市内農家が栽培した新鮮な農産物を直接市民が収穫する等の体験事業を実施します。	・農業ふれあいツアー 開催回数 18回 参加人数 2,125人	農業者の高齢化等により、収穫物の種類や実施回数が減少など課題はあるが、引き続き実施。	農家の高齢化に対しては、農政全般の課題であり、新しい担い手の確保に努める。	新規就農者の確保等の農業者への支援を継続するとともに、引き続き、農業ふれあいツアーを実施。	農業振興課
	農業まつり(再掲)	←					農業まつりを開催し、農業者と都市住民の交流を図ります。	・農業まつりの開催 11月17日(土) 来場者数 3,000人	—	引き続き実施。	引き続き、農業まつりを開催。	農業振興課
【(3) 環境に配慮した食育推進】	学校給食ごみの分別化		↔				給食の残菜の減量、給食ゴミの分別を推進します。	・H28年から稼働した第一学校給食共同調理場では、生物流動床処理方式にて生ごみや残菜を処理 ・学校給食でた空きびんやダンボール、廃プラスチックは、分別・リサイクルを実施 ・残菜が少なくなる味付けや分量について、献立作成時に検討	—	各種ごみの分別は、引き続き実施。 牛乳ストローなどのプラスチック製品の使用については、業界動向を注視しながら検討していく。	平成30年度と同様の取組みを実施中	おいしい給食課
	4R啓発事業		←				市民・事業者・行政との連携により、4R(リフューズ、リデュース、リユース、リサイクル)を普及・啓発し、焼却ごみ削減の取り組みを進めます。	「手付かず食品」キャンペーンの開催 賞味期限切れなどの理由でごみとして排出される「手付かず食品」の発生抑制や、作り過ぎや食べ残しをしない等の食品ロス削減について啓発。 年間 9,182人に啓発	—	手付かず食品キャンペーン、食べのこサンデー等の啓発事業に引き続き取り組んでいく。	「手付かず食品」キャンペーンの開催 賞味期限切れなどの理由でごみとして排出される「手付かず食品」の発生抑制や、作り過ぎや食べ残しをしない等の食品ロス削減について啓発。(502人 ※10月末時点) 年間3,600人を目標に活動。	減量業務室
	生ごみたい肥化事業		←				NPOと協働し、段ボール箱やコンポスト、EM(有用微生物群)容器を使用した堆肥化事業や市民への講習会を開催し、生ごみの資源化に取り組めます。	コンポスト・EM容器を使った堆肥化モニター参加世帯数 合計50世帯。 生ごみ堆肥化講習会の開催13回 受講者数72人。	—	講習会の受講者増加へ向け、開催方法などを検討して継続。	生ごみ堆肥化講習会を6回開催 受講者21人。(※11月時点)。 年度内に合計11回開催予定。	減量業務室
	エコレンゲ米生産支援事業	←					環境に優しい水稲種子の温湯消毒やレンゲ栽培米の普及促進に取り組めます。	レンゲ種子購入補助 1,772kg	—	引き続き実施。	引き続き、エコレンゲ米生産支援事業を実施。	農業振興課

方向性	取組名	対象となるライフステージ					事業概要	平成30年度(2018年度)の取組実績	課題	課題に対する対応策・今後の方向性	令和元年度(2019年度)の取組実績及び予定	担当課
		乳幼児期	児童生徒期	青年期	壮年期	高齢期						
(3) 進 【環境に配慮した食育推進】 ①、⑱	ひらかた食育Q&A (再掲)						食についての基礎的な知識に関する問題集「食育Q&A」を作成・配布し、幅広い世代に啓発を行います。	市内の保育所(園)、幼稚園、認定こども園、小中学校に配付するとともに、食育カーニバルをはじめとするイベント等の参加者への配付を行った。 配付実績 ・幼児用：3,495冊 ・小学生用：4,078冊 ・中高生用：3,816冊 ・大人用：1,194冊 合計：12,583冊	—	昨年度は、イベント等の機会を活用し、計画している配付数を達成できた。今後も継続して、配付を行い、活用を推進する。 また、配付時に同封している各教育機関からのアンケートを踏まえ、必要に応じて見直しを行う。	引き続き、市内の保育所(園)、幼稚園、認定こども園、小中学校や、各種イベント等で配付する。 アンケート結果を踏まえて、「幼児用」Q&Aの問題や内容の見直しを行う。	健康総務課